

セゾンマルチシリーズ 据付説明書

SAFP 5001LX～10001LX

PSA012D852

本説明書は、室内ユニットの据付方法を記載してあります。
 リモコン及び電気工事の方法は、電気配線工事説明書（室内ユニット付属）をご覧ください。
 室外ユニットの据付方法、電気配線（室外）及び冷媒配管工事方法は、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。
 ○リモコンは別売です。

- お願い**
- 取扱説明書を見ながらお客様に実際に操作していただき、正しい運転のしかた（特にエアフィルタの清掃、運転操作のしかた、温度調節の方法）をご指導ください。
 - 溶接作業時などで発生するスパッタが本ユニットにあたった場合、ドレンパン等に損傷（ピンホール）を与え、水漏れにいたる可能性があります。ユニットの近くで溶接作業を行う場合は十分な注意をお願いするとともに、ユニット内へのスパッタの侵入を防ぐため梱包状態のままとしておくか、おおいなどにより必ずカバーをしてください。
 - 長時間使用しない時は、電源スイッチを切るようお客様にご説明ください。
 電源スイッチを入れたままにしておきますと、クランクケースヒータ等に通电されエアコンを使用しなくても電力を消費することになります。

据付のまえに




機種・電源仕様

確認してください

配管・配線・小物部品

付
属
品

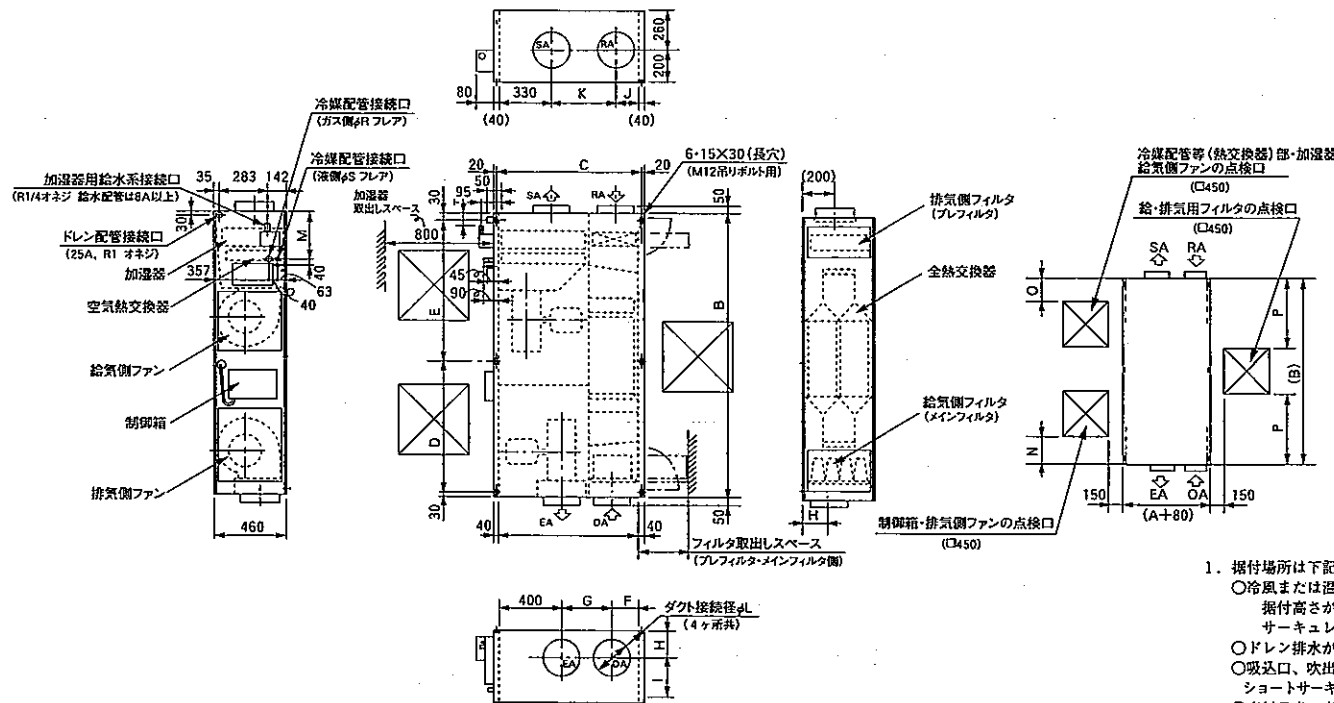
配管関係

1	パイプカバー		2個	ガス管、給水（加湿器）管接続部用（内径φ32）
2	パイプカバー		1個	液管接続部用（内径φ28）
3	バンド		6個	パイプカバー用

工事完了後、これだけは再チェック願います。

チェック項目	不良だと	チェック欄
室内外ユニットの取り付けはしっかりしていますか。	落下、振動、騒音	
ガス漏れ検査は行いましたか。	冷えない	
断熱は完全に行いましたか。	水漏れ	
ドレンはスムーズに流れていますか。	水漏れ	
電源電圧は本体に表示の銘板と同じですか。	運転不能・焼損	
誤配線・誤配管はありませんか。	運転不能・焼損	
アース工事はされていますか。	漏電時危険	
電線の太さは仕様どおりですか。	運転不能・焼損	
室内外ユニットの吸込・吸出口が障害物でふさがれていませんか。	冷えない	

据付場所の選定



空気条件

○1) 上限……ユニット周囲の露点温度が28℃以下、
 相対湿度80%以下の所。
 (高湿度の所に据付ける場合は本体の断熱等、
 露点に対する配慮をしてください。)

○2) 下限……0℃DB

くわしくは弊社発行の技術資料を参照願います。

○風量は必ず、裏面「ダクト工事」部に記載の下限～
 上限範囲内で使用してください。

- 据付場所は下記条件に合う場所をお客様の承認を得て選んでください。
 - 冷風または温風が十分行きわたる所。
 据付高さが3mを超えると暖気が天井にこもりますので、サーキュレータの併設をご指導ください。
 - ドレン排水が完全にできる所。ドレン勾配のとれる所。
 - 吸込口、吹出口に風の障害のない所。火災報知器の誤動作しない所。ショートサーキットしない所。
 - 直射日光の当たらない所。
 - 周囲の露点温度が28℃以下、相対湿度80%以下の所。
 (本ユニットはJIS露点条件にて試験を行ない、不具合のないことを確認しておりますが、ユニット周囲が上記条件以上の高湿度多湿気の状態だと水滴が落下するおそれがあります。そのような条件下で使用できる可能性がある場合には、ユニット本体の全て、および配管、ドレン配管にさらに10～20mmの断熱材を取り付けてください。)
- 据え付けようとする場所がユニットの重量に耐えられるかどうか検討し、危険と思われましたら板、拵等で補強して据付作業を行ってください。

形式	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R	S	T
500 (P28)	910	1650	950	700	890	155	355	160	300	155	425	250	260	150	200	600	300	12.7	6.35	50
750 (P45)	1120	1700	1160	710	930	260	460	160	300	260	530	250	295	200	200	625	590	12.7	6.35	70
1000 (P56)	1310	1800	1350	750	990	355	555	180	280	355	625	300	330	200	300	675	790	15.9	9.52	90

●ユニットに対する点検口および点検スペースなど上図の“配置図”を御覧ください。

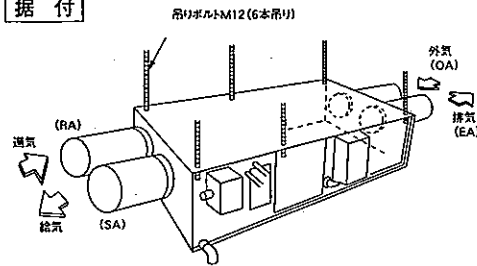
ユニットの搬入、据付

搬入

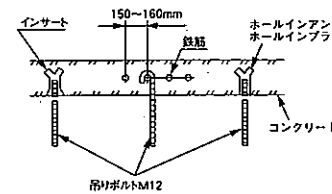
- 搬入時はできるだけ据付場所の近くまで梱包のまま搬入してください。
- ワイヤーロープで吊り上げる場合は本機の重量にみあった太さを選び、木枠下面にかけてください。

機種		500 (P28)	750 (P45)	1000 (P56)
梱包寸法	高さ	560	560	560
	奥行	1800	1850	1950
	幅	1160	1370	1560
梱包質量		160	190	220
製品質量		130	150	170

据付

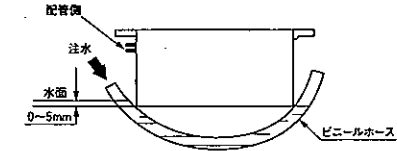


図の方法で吊りボルトを固定してください。



水平確認

- 本体下面と水面高さが下図のように調整してください。



- ユニットは必ず水平に吊り下げてください。水平がでないだとドレン水が溜まり(冷房時の凝縮水、暖房時加湿器の余剰水等)悪臭および発錆の原因となります。

ダクト工事

- 1. 風量は必ず下表の使用可能範囲内にてしてください。

送風機特性

1) 使用範囲

50/60Hz

機種	風量 (m³/h)		機外静圧 (Pa)				
	定格	使用可能	給気側		排気側		
		下限	上限	Hタップ	Lタップ	Hタップ	Lタップ
500 (P28)	500	400	600	196/196	98/49	225/225	137/49
750 (P45)	750	600	900	205/294	117/117	264/352	225/245
1000 (P56)	1000	800	1200	196/264	137/127	235/313	186/176

ご注意：※HおよびLタップにおける定格風量時の値を示す。

- 2) Hタップ……………切替スイッチ(Ss又はSE)が高静圧側を示します。
Lタップ……………切替スイッチ(Ss又はSE)が低静圧側を示します。

- 3) 排気側のみ手動ダンパにて機外静圧の補正をすることが出来ます。

- 4) 出荷時は下記の状態にセットしてあります。

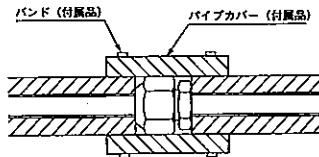
- (1) 給気側-Lタップ(スイッチSs・低静圧側)
- (2) 排気側-Lタップ(スイッチSE・低静圧側)でかつ静圧補正用
手動ダンパ中は
500 (P28) ……………全開 (開口巾は155mm)
750 (P45) ……………全開 (開口巾は219mm)
1000 (P56) ……………全開 (開口巾は300mm)
の状態にてあります。

- 2. エアコン本体の振動が外壁および天井に伝わらないようにダクトは、キャンパス継手により防振してください。
- 3. 吹出部および吸込部から空気漏れのないことを確認してください。
- 4. 屋外への吹出および吸込等の外壁貫通部は必ず雨水の浸入を防ぐ構造にしてください。
- 5. 吹出、吸込ダクトの保温施工は必ず実施し、ダクトへの結露を防止してください。
- 6. 防火区域の適用を受ける建物に設置する場合、ダクトに防火ダンパ(FD)を設けてください。
▷本ユニットは、建築基準法令第百十条の防火戸の構造の乙種防火戸と同等性能。(鉄板厚さ0.8mm以上)
- 7. ユニット本体には給気側フィルタおよび排気側フィルタが組込んでありますが、更に両者の吸込グリル部に掃除の容易なフィルタを設けられることをおすすめします。

- (給気側フィルタ……………洗浄再生不可)
- (排気側フィルタ……………洗浄再生可)

冷媒配管

冷媒配管は室外ユニットの据付説明書を見て施工してください。



<冷媒配管時の注意事項>

フレアナット締めトルク

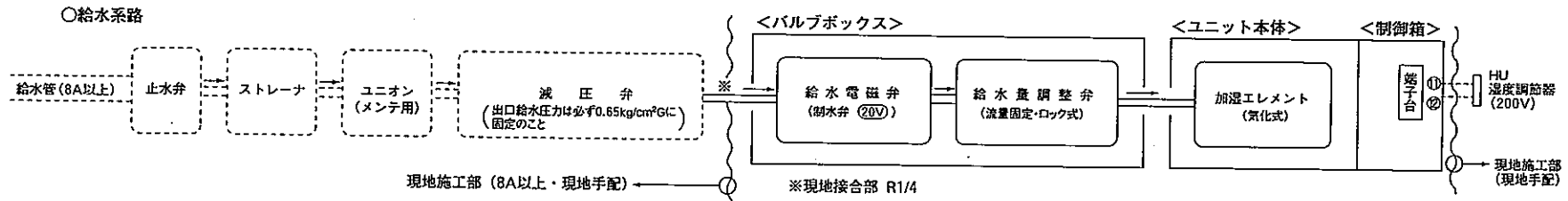
- φ6.35 : 14~18 N・m φ9.52 : 34~42 N・m
 - φ12.7 : 49~61 N・m
 - φ15.88 : 68~82 N・m φ19.05 : 100~120 N・m
- ガス側配管、液側配管とも断熱は完全に行ってください。

- ユニットの配管端部のフレアナットは、必ずスパナで2丁掛けして外してください。(このときガスが出ることがありますが、異常ではありません)
- フレアナット接続時は、フレア中心を合わせ、最初手回しで3~4回転ねじ込み、2丁スパナ掛けでしっかりと締め付けてください。
- 配管は下配材質のものをご使用ください。なお別売配管セットを使用されると便利です。
(材質) リン脱酸鋼継目無鋼管 (C1220T、JIS H3300)
- 室内機のフレア接続部は、ガス漏れチェック後、付属の継手用断熱材をかぶせ、両端を付属のバンドでしっかりと締め付けてください。
- 配管は、ねじったり・つぶしたりしないでください。
- 配管内はゴミ・切粉・水分が混入しないように施工してください。

セゾンフレッシュ 18-4/8

給水(加湿器)配管/湿度調節器

▶現地給水配管系の接合サイズはR1/4(8A)です。尚、給水管は必ず8A以上を使用してください。

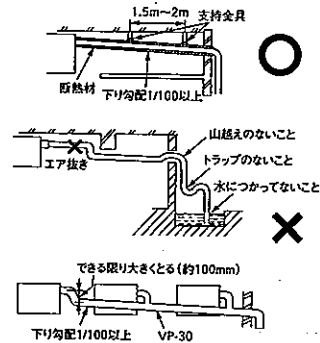


- 1) 供給水は必ず水道水(市水)又は上水を使用してください。
- 2) 供給水温度は5℃~40℃の範囲で使用してください。
- 3) 減圧弁、ユニオン、ストレーナ、止水弁を必ず取付けてください。(現地手配品)
- 4) 減圧逆止弁は必ず供給水2次側圧力64kPa(0.65kg/cm²G)に調整してください。

- 5) メンテナンス時のためユニオン接続しておいてください。
- 6) 給水量調整弁は出荷時に流量調整の上ハンドルロックしてありますので、再調整の必要はありません。
- 7) 接続管内にゴミ、切粉等が入らないよう注意してください。
- 8) 室内および天井内の給水系は必ず断熱材で確実に保温(断熱)してください。

ドレン配管

▶ドレン配管の接合サイズはR1(25A)です。ドレン配管は必ず25Aを使用してください。



- ドレン管は市販の硬質塩ビパイプ一般VP-25を使用してください。
- ドレン配管を接続する場合にユニット側の配管に力を加えないように注意して行い、できる限りユニット近傍で配管を固定してください。
- ドレン配管は下り勾配(1/50~1/100)とし、途中山越えやトラップを作らないようにしてください。
- 室内および天井内にあるドレン配管は必ず保温してください。
- エア抜きは絶対に設けないでください。
- 複数台のドレン配管の場合、左図のように本体ドレン出口より約100mm下に集合配管がくるようにしてください。また集合管はVP-30以上を使用してください。
- ドレン配管の出口は、臭気の発生する恐れのない場所に施工してください。

警告

- ドレン配管はイオウ系ガス等有害ガス及び可燃性ガスの発生する排水溝に直接入れないでください。室内に有害ガス及び可燃性ガスが侵入する恐れがあります。
- 室外ユニットの排気ドレン管と室内ユニットの排水ドレン管は共用しないでください。室内に排気ガスが流入し、中毒や酸素欠乏になる恐れがあります。

仕上げ補修

○下記の配管部を確実に保温してください。(特にユニット接続部および中継部に隙間のないこと。)

- 1) 冷媒配管(ガス側・液側共)は必ず断熱材で確実に保温してください。
- 2) 加湿器用給水配管は必ず断熱材で確実に保温してください。
- 3) ドレン配管は必ず断熱材で確実に保温してください。
(尚、テーピング時にドレン配管が持ち上がらないように注意してください。)

電気工事及び試運転

ユニットに同梱の電気配線工事説明書を御覧ください。

セゾンマルチシリーズ 電気配線工事説明書

SAFP 5001LX~10001LX

PSB012D810A

電気配線工事説明書

電気配線工事は電気設備技術基準及び内線規程に従い、電力会社の認定工事店で行ってください。

① 電気配線取り出し穴位置および電気配線接続

電源配線

警告

- 下記のことを必ず守ってください。守らないときは、感電による火災、感電又は過熱、ショートによる火災の恐れがあります。
- 電源配線の仕様・サイズの選定は、「電気設備に関する技術基準を定める通商産業省令」、「内線規程」に従ってください。また、接続部の緩みがないようにしてください。
- 機器毎に設定された過電流及び漏電遮断器（感度電流30mA）を設置すること。
- 専用の分岐回路を用い、他の機器と併用しないこと。併用した場合、ブレーカー落ちによる2次災害が生じる恐れがあります。

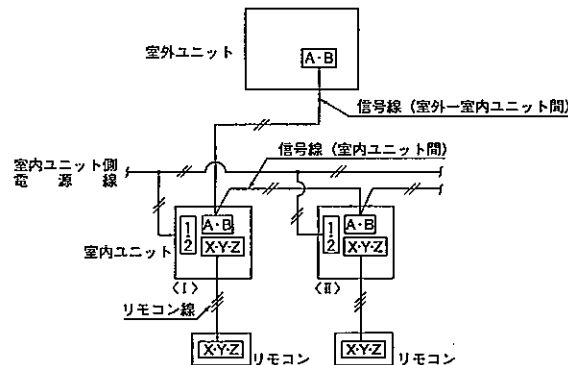
注意

- 8mm²を超える太さの配線は接続不可能です。8mm²以上をご使用の場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐するようにしてください。
- 信号線用端子台に200Vを接続しないでください。
- 電源は工事が完了するまで入れないでください。

○電気工事は電力会社の認定工事店で行ってください。本配線仕様は、下記に基づいて決定しています。

- 1) 電線は銅線以外のものを使用しないでください。
- 2) 電源は、室外ユニット・室内ユニットの夫々別電源。
- 3) 電気ヒータ（別売品）は含んでおりません。
注）電気ヒータを組込む場合は、電源仕様・配線仕様および配線本数が異なりますので、ご注意ください。
- 4) 同一系統内の室内ユニット電源は、必ず全て同時ON、同時OFFになる様にしてください。
- 5) 信号線と電源線の接続を間違えますと全ての基板が焼損してしまいますので、ご注意ください。

配線系統図（室外・室内ユニット接続要領）



電源仕様

室内ユニット 合計電流 (A)	配線用遮断器 定格電流 (A)	漏電遮断器 (50/60Hz)		
		定格電流 (A)	感度電流 (mA)	動作時間 (sec)
7以下	20	20	30	0.1以下
11以下				
12以下	30			
16以下				
19以下				
22以下	40	40		
28以下				
28以下	50	50	100	

配線仕様

室内ユニット 合計電流 (A)	電源用 配線太さ (mm ²)	配 線 長 (m)	信号線太さ (50/60Hz)	
			室外-室内 (mm ²)	室内-室内 (mm ²)
7以下	2	21	0.75~2.0 ×2本	0.75~2.0 ×2本
11以下	3.5			
12以下		33		
16以下	5.5	24		
19以下		20		
22以下		27		
28以下	8	21		

- 注(1)配線こう長は、合計電流値の最大値で記載してあります。
 (2)室内ユニット接続線は5.5mm²まで使用可能です。8.0mm²以上の配線をご使用なされる場合は、専用のプルボックスを使用し、室内ユニットへ分岐してください。
 (3)配線こう長は、電圧降下を2%とした場合を示します。上表の配線こう長を超える場合は、内線規程に従い、配線太さを見直してください。

冷暖フリーマルチ (224H, 280H, 560H) の場合

分流コントローラの配線

- 本ユニットを冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ(別売品)の据付説明書をご覧ください。

② アドレス設定

- (1) 自動アドレス設定 (2) 手動アドレス設定 (3) リモコンアドレス設定

上記3項目については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。
 なお、(3) リモコンアドレス設定については、設定可能な機種と不可能な機種がありますので、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

③ リモコン取付と配線及び機能

リモコン リモコンは別売です。

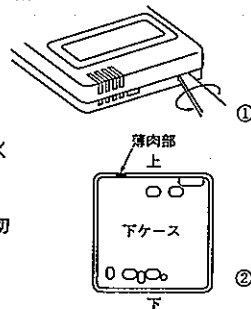
リモコンの据付 お願い 次位置は避けてください。

- 1) 直射日光の当たる場所
- 2) 発熱器具の近く
- 3) 湿気の多い所・水の掛る所
- 4) 取付面に凸凹がある所

取付要領

露出取付

- ①リモコンケースをはずしてください。
 ●リモコン上部の凹部にマイナスドライバ等を差し込んで軽くねじり、ケースをはずします。
- ②リモコンコードの取出し方向は、上方向のみ可能です。
 ●リモコン下ケース側の上方薄肉部をニッパー・ナイフ等で切り取った後、ヤスリ等でバリを取ってください。
- ③リモコン下ケースを付属の木ねじ2本で壁に取り付けます。



- ④リモコンコードを端子台に接続してください。室内機とリモコンの端子番号を合わせて接続してください。端子には極性があるので間違えると運転できません。

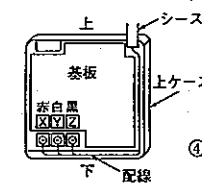
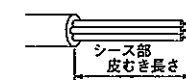
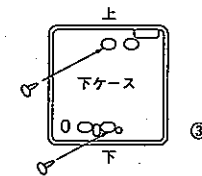
端子：①赤線、②白線、③黒線

リモコンコードは、0.3mm²(推奨)~最大0.5mm²以下としてください。また、リモコンケース内を通る部分はシース部を皮むきしてください。

各配線の皮むき長さは下記の通りです。

黒：195mm
 白：205mm
 赤：215mm

- ⑤上ケースを元通りに取り付けてください。
- ⑥リモコンコードをコードクランプを使用して壁等に固定します。
- ⑦室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。
機能の設定の項をご覧ください。



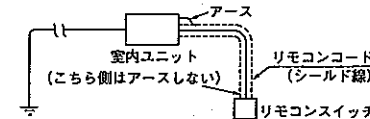
リモコンコードを延長する場合の注意 ▶ 最大総延長600m

コードは必ずシールド線を使用してください。

- 全形式：0.3mm²×3心 [MVVS3C(京阪電線)]

注(1)延長距離が100mを超える場合は、下記のサイズに変更してください。但し、リモコンケース内を通る配線は最大0.5mm²以下とし、リモコン外部の近傍で配線接続により、サイズ変更してください。

- 100~200m以内.....0.5mm²×3心
- 300m以内.....0.75mm²×3心
- 400m以内.....1.25mm²×3心
- 600m以内.....2.0mm²×3心



- シールド線は必ず片側のみをアースしてください。

埋込取付

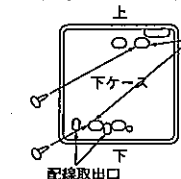
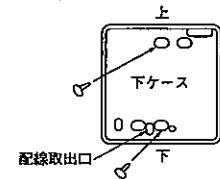
- ①JISボックスとリモコンコード(延長の場合はシールド線を必ず使用)をあらかじめ埋込んでおきます。

[使用可能JISボックス]

- JIS C 8336 1個用スイッチボックス
- 2個用スイッチボックス

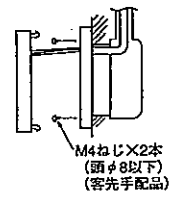
1個用スイッチボックスの場合

2個用スイッチボックスの場合



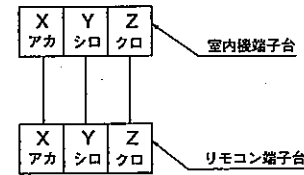
ねじ取付部の薄肉部分をナイフ等で、切りとってからねじをしめてください。

- ②リモコンの上ケースを外してください。
- ③下ケースをM4ねじ2本(頭φ8以下)を用いてJISボックスに取付けてください。
- ④リモコンコードをリモコンに接続します。
【露出取付】の項をご覧ください。
- ⑤上ケースを元通り下ケースにはめ込み取付完了です。
- ⑥室内機の機能や用途に合わせて、機能設定をしてください。
【機能の設定】の項をご覧ください。



リモコンと室内の配線

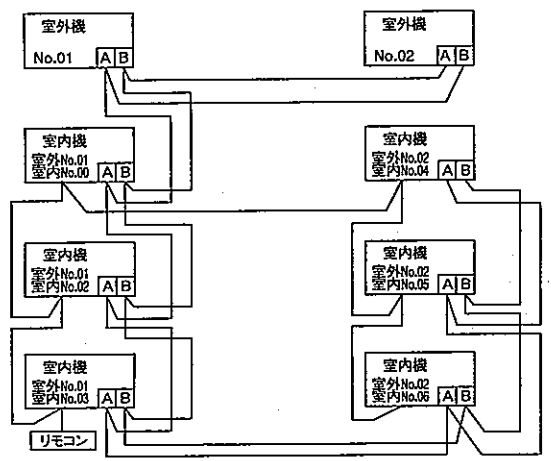
- リモコン配線は極性があります。
必ず同一端子台No.同士接続してください。



リモコン複数台制御

配線要領

- グループ制御用に各室内機間に渡り配線をします。(3本)
- 室内ユニットリモコン用端子台XYZに、接続してください。なお極性がありますので、同じ端子No.の所へ接続してください。
- 配線は0.5mm²以上を使用してください。(配線の引廻しに耐えるもの)
- 渡り線、リモートコントローラ配線の総延長は600m以内としてください。
- 室内・室外No.を手動アドレス設定にてセットしてください。
- 室外機の室外No.設定も必要です。忘れずに設定してください。
- 下図の様に室外機が複数台の場合でもリモコン複数台制御可能です。
- 1つのリモートコントローラで複数台のユニット(最大16台)をグループ制御できます。
- 室内基板上のロータリースイッチSW1、SW2により、リモコン通信アドレスを重複しないように設定してください。



電源投入後、リモコンの【エアコンNo】を押すと室内機アドレスが表示されますので、▲▼ボタンで接続されている室内機アドレスがリモコンに表示されることを、必ず確認してください。

機能の設定

- リモコン及び室内機の各機能は、接続される室内機により自動設定されます。
(標準的な使い方をする場合は設定の変更はいりません。)
- 但し、グリル昇降設定と、特別に初期設定を変更する必要がある場合は、設定を変更してください。
設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

工場出荷時、リモコンはグリル昇降無効の設定となっていますので、**ラクリーナパネル**ご使用の場合は、必ずグリル昇降有効の設定が必要です。
設定方法は、リモコンの据付説明書をご覧ください。

各機能の初期設定は下記の通りです。

(1) リモコン機能

機能番号 ①	機能内容 ②	設定内容 ③	初期 設定
01	グリル昇降設定	昇降無効	○
		有効50Hz地区	
		有効60Hz地区	
02	自動運転設定	自動運転有効	○
		自動運転無効	
03	温度設定	温度設定有効	○
		温度設定禁止	
04	運転切換	運転切換有効	○
		運転切換無効	
05	運転/停止	運転/停止有効	○
		運転/停止禁止	
06	風量調整	風量調整有効	※
		風量調整禁止	
07	風向調整	風向調整有効	※
		風向調整禁止	
08	タイマー	タイマー有効	○
		タイマー禁止	
09	リモコンセンサ設定	リモコンセンサ無効	○
		リモコンセンサ有効	
10	停電補償設定	停電補償無効	○
		停電補償有効	
11	換気設定	換気換熱なし	○
		換気運動	
12	温度範囲設定	表示変更有	○
		表示変更無	
13	室内ファン速調	ファン3速	
		ファン2速	
		ファン1速	※
14	冷専/ヒートポン	冷専	※
		ヒートポン	
15	外部入力設定	個別運転	○
		全台同一運転	
16	エラー表示設定	エラー表示有り	○
		エラー表示無し	
17	ルーバ制御設定	ルーバ4位置停止	○
		ルーバフリー停止	

(2) 室内機能

機能番号 ①	機能内容 ②	設定内容 ③	初期 設定
01	高天井設定	標準	○
		高天井1	
03	フィルターサイン設定	表示しない	
		180時間後	
		600時間後	○
04	ルーバ制御設定	1000時間後	
		1000時間一停止	
		ルーバ4位置停止	○
05	外部入力切換	ルーバフリー停止	○
		レベル入力	
06	運転許可/禁止	バス入力	○
		通常運転	
07	暖房室温補正	有効	○
		通常運転	
08	暖房ファン制御	室温補正+3℃	○
		室温補正+3℃	
09	凍結防止温度	室温	○
		2.5℃	
10	凍結防止制御	1℃	○
		ファン制御無効	
11	電気集塵機	ファン制御無効	○
		ファン制御有効	
12	加湿器制御	ファン制御有効	○
		ドレンモータ非運動	

注1.「※」印の項目の初期設定は、室内機の機種毎に異なり、下記の通りとなります。

セゾフレッシュ 18-8/8

注1.「※」印の項目の初期設定は、室内機の機種毎に異なり、下記の通りとなります。

機能番号④	機能内容④	設定内容④	初期設定
06	風量調整	風量調整有効	室内ファン風量2、3速の機種
		風量調整禁止	室内ファン風量1速の機種
		風向調整有効	オートシングルルーバ搭載機種
07	風向調整	風向調整有効	オートシングルルーバ搭載機種
		風向調整禁止	その他
		ファン3速	室内機ファン風量3速の機種
13	室内ファン速調	ファン2速	室内機ファン風量2速の機種
		ファン1速	室内機ファン風量1速の機種
		ヒューズ	ヒューズ機
14	冷凍/ヒューズ	冷凍	冷凍機

注2.室内機に機能がない内容の場合、設定しても室内機は動作しません。

注3.(1)のリモコン機能の⑦ルーバ制御設定を変更する場合は、(2)室内機能の④ルーバ制御設定も変更してください。

④ 制御の切替

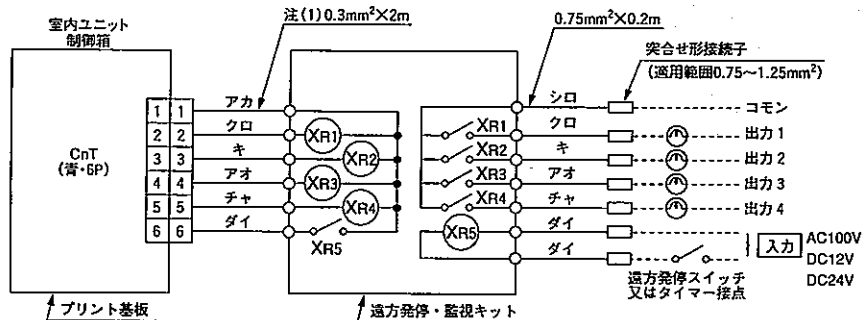
□ 囲みが工場出荷時の設定

室内機の制御内容を下記方法にて切替可能です。

SW5-1	ON	ドレンポンプ試運転	J1	短絡	フィルタサイン有効	
	OFF	ドレンポンプ自動		開放	フィルタサイン無効	
SW5-2	ON	加湿器残留運転 有効	J2	短絡	運転制御標準	
	OFF	加湿器残留運転 無効		開放	運転許可禁止	
SW5-3	ON	外部入力 バルス入力	J3	短絡	暖房サーモOFF制御はJ4による	
	OFF	外部入力 レベル入力		開放	暖房サーモOFF時停止	
SW5-4	ON	緊急停止信号 有効	J4	短絡	暖房サーモOFF時間欠運転	
	OFF	緊急停止信号 無効		開放	暖房サーモOFF時Lo風量運転	
SW6-1		機種容量設定	J8	短絡	加湿器ドレンポンプ非運動	
SW6-2				開放	加湿器ドレンポンプ運動	
SW6-3			リモコン風量表示の切替 ×:開放 ○:短絡			
SW6-4			記号	設定1	設定2	設定3
SW9-1			ラクリーナパネル降下長設定	J10	○	×
SW9-2			J11	○	○	×
SW9-4	ON	ファン制御 高速(高天井)	風量切替設定 (3速(急/強/弱) (2速(急/弱) (1速(風量調整有効))			
	OFF	ファン制御 標準	※風量切替設定の工場出荷時設定は、室内機により異なります。			

注)機種によっては、上記制御内容の一部が無い機種もございます。詳細は機種別の結線銘板をご覧ください。

⑤ 室内基板CnTコネクタの機能



注(1) 2mより長くしないでください。

- XR1~4はDC12Vリレー (オムロンLY2F相当品)
- XR5は、DC12、24V又はAC100Vリレー (オムロン製MY2F相当品)
- CnTコネクタ (現地備) メーカー、形式

コネクタ	モレックス	5264-06
端子	モレックス	5263T

●機能

出力1	エアコン運転出力 (エアコンON時XR1=ON)	
出力2	暖房出力	
出力3	サーモON出力 (サーモON時XR3=ON)	
出力4	エアコン点検出力 (エアコン点検時XR4=ON)	
入力5	出荷時	XR5 OFF⇒ON エアコンON XR5 ON⇒OFF エアコンOFF
	現地切替 (SW5のNo.3をON)	XR5 OFF⇒ONのパルス信号によりON/OFF反転

- 冷暖フリーマルチとして使用する場合は分流コントローラ(別売品)の据付説明書をご覧ください。
- 遠方発停・監視キットを別売品で準備しておりますのでご利用ください。

⑥ ドレンポンプ運転操作

ドレンポンプ運転がリモコン操作により可能です。リモコンを次の手順で操作してください。

- ドレンポンプ強制運転の開始
 - 「試運転」ボタンを3秒以上押します。
「項目◆で選択」→「[セット]で決定」→「冷房試運転▼」と、表示が切り換わります。
 - 「冷房試運転▼」の表示の時に、「▼」ボタンを一度押し、「ドレンポンプ運転◆」を表示させます。
 - 「セット」ボタンを押すと、ドレンポンプ運転を開始します。
表示:「ドレンポンプ運転」→「[セット]で停止」
- ドレンポンプ運転の解除
 - 「セット」ボタン又は、「運転/停止」ボタンを押すと、ドレンポンプ強制運転を停止します。
エアコンは停止状態となります。

⑦ 試運転

試運転については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

⑧ 故障診断方法

故障診断方法については、室外ユニット付属の説明書をご覧ください。

⑨ 工事完了後のチェック項目

- 電源電圧は本体表示と同じですか。
- 室外機側でアース工事はされていますか。
- 電源線の太さは指定の配線と同じですか。
- 電源線、信号線、リモコン線の接続位置は正しいですか。